

ニュージーランド準備銀行は0.25%の利下げを決定

- ニュージーランド準備銀行(RBNZ)は政策金利を過去最低の1.50%へ引き下げ、RBNZによる利下げは2年半ぶり。
- RBNZによる利下げの目的は国内景気下支えのため。ニュージーランド景気は18年後半から減速傾向に転じる。
- 労働市場は「完全雇用の水準に近い」ものの、「雇用増の見通しは弱く、インフレ圧力も限定的」との見方が示される。
- 先行きの金融政策に関しては、RBNZは20年の追加利下げの可能性を示唆。当面は政策の様子見姿勢を継続へ。

RBNZは2年半ぶりに0.25%の利下げを決定

ニュージーランド準備銀行(RBNZ)は5月8日、大方の市場予想通り、政策金利を0.25%引き下げ、過去最低の1.50%とする決定を下しました(図1)。RBNZによる利下げは2016年11月以来、2年半ぶりとなります。

金融政策委員会の声明文では、「雇用と物価の見通しを支援するため、委員会は政策金利の引き下げが必要と判断した」との見方が示されました。

2018年後半から国内景気は減速傾向に転じる

また、金融政策委員会の声明文の景気判断に関する箇所では、2018年後半からニュージーランドの経済成長が減速している点に言及がなされました。RBNZでは景気減速要因として、移民流入の鈍化による人口増加率の低下、住宅価格の軟調、企業景況感の低迷や企業の利益率低下などによる投資の抑制などを挙げています。

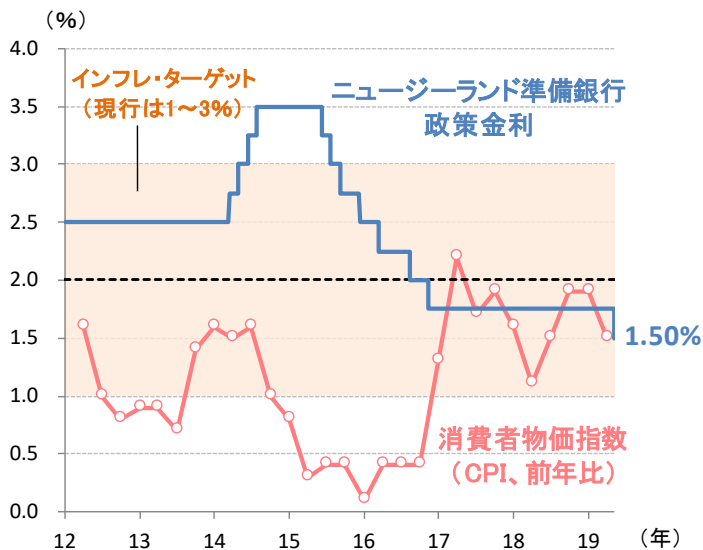
RBNZの経済見通しによれば、ニュージーランドの実質GDP成長率は2018年後半から潜在成長率を下回る傾向にあり、直近2018年10-12月期の前年比+2.3%から2019年4-6月期には前年比+2.0%まで鈍化が予想されています(図2)。RBNZが公表した四半期金融政策報告(2019年5月)では、「景気下支えのためより緩和的な金融政策スタンスが必要」との言及がなされました。

当面の金融政策は様子見姿勢を継続へ

一方、RBNZは労働市場に関して「完全雇用の水準に近い」との判断をしつつ、「雇用増の見通しは弱く、インフレ圧力の高まりは緩やかに留まる」との見通しを示しました。

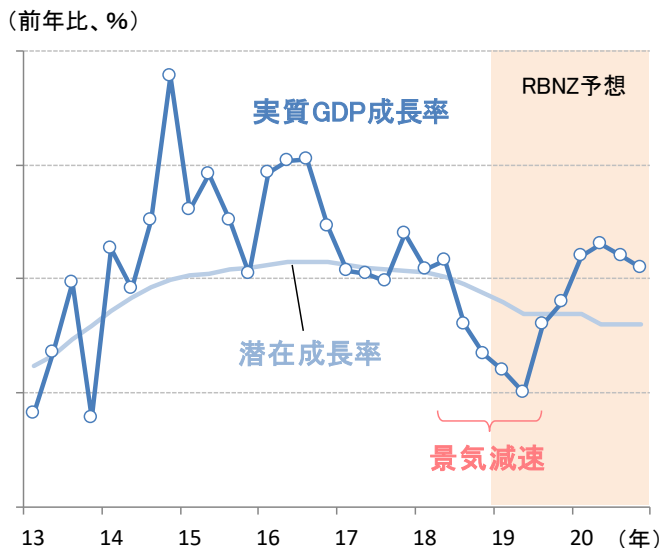
RBNZが示した先行きの金利見通しでは、年内は政策金利を据え置き、2020年に追加利下げの可能性が残されていることが示唆されています。当面のRBNZの金融政策は、景気動向を見据えた様子見姿勢が続くようです。

図1:ニュージーランドの政策金利とインフレ率



(出所)ニュージーランド準備銀行(RBNZ)、ニュージーランド統計局
(期間)政策金利:2012年1月4日~2019年5月8日
CPI:2012年1-3月期~2019年1-3月期

図2:ニュージーランドの実質GDP成長率の推移



(出所)ニュージーランド統計局、RBNZ
(期間)2013年1-3月期~2018年10-12月期
(注)RBNZ予想は2019年5月2日時点。

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。●当資料に記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。